日刊
まにら新聞
The Daily MANILA SHIMBUN
ASIAN INTERNATIONAL COMMUNITY INFORMATION, INC. (Printer-Distributor)
AICI, Manila Shimbun Building, 1037 Teresa Street, Rizal Village, Makati City
Tel. 890-4546 / 890-4745
Fax. 890-3640
P80.00 Since1992 in METRO MANILA
発行 A.I.C.I. Japan
東京都狛江市元和泉2-14-3
© A.I.C.I. Japan 2013
http://www.manila-shimbun.com

Yakult
一日一本健腸長寿

裁量予算の正当性強調

議員報奨や総額には触れず

不正流用問題

大統領テレビ演説

アキノ大統領は30日夜、テレビ中継で国民に向けた演説を行い、不正流用疑惑で廃止を求める声が上がっている大統領の裁量的予算について、資金源や使途を説明し、「私は公金を盗んでいない」と支出の正当性をあらためて強調した。補助金不正流用問題で国民の怒りが高まる中、一連の事件の徹底捜査と関与した人物の刑事訴追を約束し、任期が2年8カ月残る現政権に対する信頼の回復を図った。一方、批判の発端となったコロナ前最高裁長官弾劾後の上院議員への「報奨」の支出や、裁量的予算の総額などには触れず、野党陣営が問題を混乱させたと非難した。

大統領はまず、自由裁量（DAP）の原資について、政府予算の貯蓄分を支出できる制度「支出促進計画」（政府予算の貯蓄や歳入の目標額超過分など、汚職と無駄を省いた「グッド・ガバナンス（良い統治）」によって捻出された資金だと説明した。

制度ができた2011年以降、DAPから①科学技術省（DOST）の洪水監視システム構築②技術教育技能開発局（TESDA）の奨学金制度③ミンダナオ地方のインフラ整備④国軍、国家警察支援――など、「国民に具体的で実質的な恩恵のある事業」（大統領）に支出されたと指摘。世銀の分析を引用し、DAPによる公的支出の促進が、11年第4四半期の国内総生産（GDP）成長率4・0％のうち1・3ポイント相当に貢献したと述べ、好調な経済成長のけん引役となっていることを強調した。

また、同様に大統領の裁量で支出先や額が決まる「予備費」と「特別基金」についても、災害など迅速な支出が求められる緊急時に必要だと説明。ミンダナオ地方サンボアンガ市街占拠事件で死亡した国軍兵士や警官の遺族に対する支援や、台風・地震など自然災害発生時の緊急支援を例に挙げた。

その上で、「全廃するのは簡単だが、緊急時や、国民が真に資金を必要としているときに数カ月の国会承認を待っていられるだろうか」と問い掛けた。

大統領は、DAPなど大統領府の裁量的予算が、国会議員向けの優先開発補助金（PDAF、通称ポークバレル）とは異なることを繰り返し強調し、「問題の根幹は公金を盗む違法行為。DAPは合憲、合法であり、私は一切公金を盗んでいない」と潔白を主張した。

また、大統領の裁量的予算に対する一連の批判は、「公金を盗んだ人物らが、問題を混乱させ、自らの罪をごまかそうとした」と糾弾。名指しは避けたものの、「古参政治家とその陣営」と呼んで、不正流用事件で司法省と国家捜査局（NBI）が行政監察院に起訴を勧告した、野党のエンリレ、レビリヤ、ジンゴイ・エストラダ各上院議員らを暗に非難した。

エストラダ議員は、起訴勧告を受けた直後に行った特別演説で、アキノ政権が、コロナ前最高裁長官弾劾や人口抑制法案の可決などで、PDAFやDAPを利用し、議員らを懐柔したり、報奨を与えてきたと批判した。（大矢南）

次回は上位2桁に
ビジネス環境調査で
大統領府報道班長

世界銀行が公表したビジネス環境調査2014年版の結果について、コロマ大統領府報道班長は30日、「次回調査では、（99位以内の）上位2桁に入ることを目標にする」と語った。

世界189カ国・地域を対象にした14年版で、比は108位となり、前年の133位から大きく順位を上げた。

ラシエルダ大統領報道官によると、アキノ大統領は31日、関係閣僚らと共に首都圏のバスターミナルなどを視察し、安全対策の実施状況などを確認する予定。

内務自治省のロハス長官は30日、バランガイ（最小行政区）選挙に備えて引き上げられていた全国の警戒レベルを、万聖節終了後まで「最高」に維持し、厳戒態勢を敷くと発表した。

混雑地域の安全確保指示

万聖節控えアキノ大統領

11月1日の万聖節を控え、アキノ大統領は30日午後、マラカニアン宮殿で首都圏首長会議を開き、万聖節で混雑が予想される地域の安全を確保するよう指示した。

会議には、首都圏の14市長と1町長のほか、ガスミン国防、ロハス内務自治、ソリマン社会福祉開発各長官などの閣僚も出席した。エストラダ・マニラ、カリクスト・パサイ両市長は欠席した。エストラダ市長は「韓国人投資家との先約があった。マラカニアン宮殿は午前中に訪問した」と欠席に政治的意図はないと強調した。

同市長は、香港からの外国人観光客8人が射殺されたバス乗っ取り事件に絡み、近く香港を訪問し、謝罪すると報道されている。一方、アキノ大統領はこの事件に関して、大統領として謝罪しないとの姿勢を貫いている。

大統領はまた同日午前10時ごろ、父親のアキノ元上院議員と母親のコラソン・アキノ元大統領が眠る首都圏パラニャーケ市のマニラ・メモリアル・パークを訪れた。混雑を避けるため、万聖節前に墓参したという。

2012年に亡くなった弟の墓に新しいペンキを塗るグアンソンさん＝30日午後4時半ごろ、首都圏マカティ市の南部墓地で写す

万聖節控え墓掃除

今夜から墓参り本格化

故人と聖人をしのぶカトリックの行事、万聖節を11月1日に控え、首都圏各地の墓地では30日、親族の墓を掃除し、ペンキを塗り直す人々の姿が見られた。31日夜から墓参りが本格的に始まり、2日ごろまで、墓地はろうそくを灯し、花や食べ物を供えて故人の魂と過ごす人であふれる。

首都圏マカティ市の南部墓地には、約100万人が眠る（同墓地事務所）。30日、「アパートメント式」と呼ばれる墓にベージュのペンキを塗っていたのは、ロナルド・グアンソンさん(41)。2012年3月にオートバイとの衝突事故で亡くなったペディキャブ運転手の弟（享年37）の墓をおいと共に詣でた。

アパートメント式は、5年契約のレンタル墓で、棺や葬儀などとセットで葬儀店が1万5千ペソほどから用意するという。5年たてば、遺体を取り出さなければならない。墓代も年々上がっており、突然の訃報に費用を工面できない貧困層が利用している。

自身もペディキャブ運転手のグアンソンさんは「万聖節は客が増える。仕事があるので、1日はもう来られないと思うが、大事なのは毎年きちんと掃除をして故人を放っておかないこと」と話した。

ヨランダ・クリストバルさん(49)は親の代から50年以上、墓地内に住み約50基の墓の世話をして暮らしている。

墓の管理料は年間で1200ペソ。墓の所有者は毎年万聖節に、クリストバルさんら管理人に料金を支払う。墓地を訪れない人もいるので、全員から管理料を受け取れるわけではない。ペンキ塗りや、小さなサリサリ・ストア（雑貨店）で残りの生活費をまかなう。

墓地はマカティ市にあるが、内部の管轄はマニラ市。選挙のたびに変わる管理事務所の所長とうまく付き合うのが、仕事を守るコツだという。

墓地での生活は怖くないかとの質問に「死者は動かず、悪さもできない。怖いのは生きている人間だよ」と笑った。

商業施設で火事
7時間後に鎮火
ケソン市

29日午後11時ごろ、首都圏ケソン市の商業施設ロビンソンズ・ガレリア3階の倉庫で火事が発生し、約7時間後の30日午前5時50分ごろ鎮火した。負傷者の報告はない。被害額は1千万ペソ相当に上るとみられる。

同市消防局によると、出火場所は玩具店の倉庫。充満した煙などにより消火作業が遅れたが、隣接する店舗への延焼はなかった。

30日午前11時45分ごろには、同市の住宅密集地で火事があり、男児1人が負傷、65世帯が焼け出された。火は約30分後に消し止められた。

収監者9人脱走
南カマリネス州

ルソン地方南カマリネス州ピリ町の拘置施設で30日午前2時すぎ、殺人や車両窃盗、違法薬物などの容疑で収監中の男性9人が脱走した。

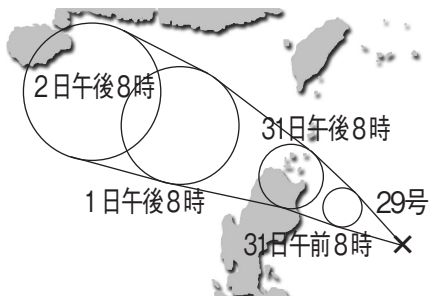
国家警察ビコール地域本部の調べでは、9人は金属用のこぎりでトイレの鉄格子を切断し、脱走した。発生時の看守の人数など詳細は明らかでない。

脱走の誘いを断った収監者の1人が約1時間後に看守に通報した。

台風ビンタ

今夕、ル地方北部上陸へ

カガヤンなど4州に警報2



ルソン地方東方沖の太平洋上にある熱帯低気圧ビンタは30日未明、勢力を強めて台風（29号）になった。時速20キロ強で同地方北部へ向かっており、31日夕にカガヤン州南部付近に上陸後、カリンガ、アパヤオ、アブラ各州を横断し、11月1日午前に北イロコス州沖の西フィリピン海（南シナ海）へ抜ける見通し。比気象庁は、警報2をカガヤンなど4州に出し、警戒を呼び掛けている。

同庁によると、30日午後5時現在の位置は、カガヤン州トゥゲガラオ市の東方645キロの太平洋上。時速23キロで西北西へ進んでいる。中心気圧は992ヘクトパスカル、最大瞬間風速は約35メートル。

ルソン地方中北部では、31日午後から風雨が強まるとみられ、同庁は「（1日の万聖節に伴う）帰省や墓参は控え、自宅で待機した方が良い」と呼び掛けている。

8月下旬の台風接近時、首都圏周辺に大雨をもたらした南西季節風（ハバガット）は弱まっており、同庁は「台風ビンタ接近による首都圏周辺の雨量は多くて中程度」と予想している。

30日午後5時現在、発令中の警報と対象地域は以下の通り。

【警報2】カガヤン、イサベラ、カリンガ、アパヤオ各州とカラヤン、ババヤン両諸島。

【同1】南・北イロコス、マウンテンプロビンス、アブラ、ラウニオン、ベンゲット、イフガオ、ヌエバビスカヤ、キリノ、アウロラ、パンガシナン、ヌエバエシハ各州など。（酒井善彦）

死者222人に
ボホール地震

国家災害対策本部によると、ビサヤ地方ボホール州地震の死者は30日午後6時までに、前日から4人増え計222人になった。行方不明、負傷者はそれぞれ8人、796人。

死者の州別内訳は、ボホール208人、セブ13人、シキホール1人。

被災者数は6州6市60町の約67万1千世帯、約322万1千人、全半壊した家屋は約6万6900戸となった。ボホール州では、約7万5100世帯、37万1千人が避難生活を続けている。

就籍許可100人超える

フィリピン残留日本人

東京家庭裁判所は29日、太平洋戦争のためフィリピンに取り残された身元不明の日系2世（残留日本人）で、ミンダナオ地方コタバト州在住の岩尾クリスティトウトさん(76)と、アルフレドさん(71)兄弟2人の就籍を許可した。これで就籍許可者は計101人となり、特定非営利活動法人、比日系人リーガルサポートセンター（PNLSC、東京都新宿区）が国籍回復事業を開始した2004年から9年目で100人を超えた。

2人の父親、岩尾シゲユキさんは、熊本県出身で戦前に比に移住し、コタバト州で大工をしていた。シゲユキさんは1941年3月、比人女性シメオナさんと結婚した。日本軍の通訳だったシゲユキさんは終戦後も降伏を拒み、45年10月、赤痢にかかり、山中で死亡した。

PNLSCによると、岩尾兄弟は当初、次男のガウデンシオさんと共に3人で就籍申し立ての準備を始めた。しかし、ガウデンシオさんは2012年8月、就籍申し立て前に73歳で亡くなった。

PNLSCの金丸友香さん(28)は「2世自身の体力の衰えに加えて、1世を知る証人も減ってきている」と深刻化する比日系2世の高齢化を指摘した。加えて、教会などに保存された婚姻証明書などの資料も、シロアリ被害などで劣化しているケースが増えてきているという。

日系2世の就籍支援活動は、身元確認の資料の焼失や高齢化で年々難航。2011年、日系2世の就籍許可を支援する学者、弁護士、マスコミ関係者らによる有識者会議の提言を基に「比残留日本人2世孤児名簿」が作成された。

サンバレス州で
軽飛行機不時着
男性2人無事

30日午前8時半ごろ、ルソン地方サンバレス州サンマルセリーノ町内に、飛行訓練学校所有の軽飛行機が不時着した。乗っていた男性2人は無事。エンジン不調を起こしたらしい。

国家警察の調べでは、軽飛行機は午前7時45分ごろ、同州スービック空港を離陸し、ベンゲット州バギオ市へ向かっていた。約30分後、エンジンの油圧が低下したため、不時着を試みた。

不時着先は、ピナトゥボ山付近から流れ出た火山灰混じりの泥流（ラハール）が固まってできた野原だった。

エイズ感染者3581人

1～9月 前年通年を超える

厚生省の30日発表によると、9月のエイズウイルス（HIV）新規感染者数は、前年同月比35％増の427人だった。これで、今年1月から9月の感染者数は計3581人となり、2012年通年の感染者数3338人を早くも上回った。

9月は、5カ月ぶりに感染者数400人を切った8月から一転、400人台に戻った。これまでの月別最多は7月の449人。

新規感染者のうち、41人がすでにエイズを発症し、14人が死亡した。感染経路の内訳は、性交渉による感染が97％を占め、男性同士の性交渉による感染は84％だった。

1984年の調査開始以降の感染者数は計1万5283人。

武装集団が豚500匹殺害

30日午前6時ごろ、比共産党の軍事部門、新人民軍（NPA）とみられる武装集団が、ミンダナオ地方ブキドノン州リボナ町の養豚場を襲撃し、豚約500匹を銃やナイフで殺害し、豚小屋を焼き打ちした。

国家警察リボナ署の調べでは、少なくとも40人の武装集団が、警備員らを銃で脅し、養豚場に押し入った。集団は警官の制服を着ていたという。

きょうの天気と気温

マニラ	☁/☂	22-32
バギオ	☂	13-20
タガイタイ	☁/☂	20-27
アンヘレス	☁/☂	22-32
セブ	☀/☁	24-30
ダバオ	☁/☂	24-33
カガヤンデオロ	☁/☂	24-31

日の出（マニラ）午前5時51分
日の入り　午後5時28分
30日の気温　最高31.6（午後1時）
最低21.9（午前6時）

外国為替（30日）

$1＝P43.100（前日比P0.050高）
＝¥98.24（同¥0.62安、東京）
1万円＝P4,375、$100＝P4,300
（マニラ市の市中両替商調べ）

株価動向

比証券取引所株価指数＝6,597.21
（前日比53.75ポイント△）
東証I部平均株価＝14,502.35円
（同176.37円△）

トップニュース（30日）

≫世銀の2014年版ビジネス環境調査で比、前年の133位から108位に躍進（ビジネスワールド）
≫優先開発補助金（通称ポークバレル）の流用事件で、現政権関係者が過去にジャネット・ナポレス被告の弁護士を務めていたことが発覚（インクワイアラー）
≫バランガイ選で中央選管、9割以上の当選を宣言（スター）
≫入国管理局、農務省国家食糧庁長官は「比米の二重国籍」と指摘（スタンダードトゥデー）

大衆紙の話題

女性宅に3メートルの蛇出没　首都圏マニラ市サンタクルスにある60歳の女性宅に体長3メートルの蛇が出没した。天井から落ちてきた蛇に驚いた女性は家を飛び出て付近の住民に助けを求めた。蛇はトイレにある小さな穴に逃げ込んだため、マニラ動物園の職員らが床の一部を破壊し、蛇を捕獲した。（30日・Pトゥナイト）

マニラ新聞配達区域外にお住まいの方は、ホームページのご購読をおすすめします。
早朝5時からマニラ新聞1面の全文を読むことができ、過去記事の検索・閲覧も可能です。
1ヶ月P1,000(6か月毎の契約です)より。
詳細はホームページ上の「Webでのニュース購読」をクリックしてください。
http://manila-shimbun.com
日刊マニラ新聞

毎朝食卓で“フィリピン”が読める日刊マニラ新聞
【代表】☎890-4546, 890-4745 Fax. 890-3640【広告部】☎890-8480 Telefax. 895-4245 ☎897-3732
【編集部】☎895-3663, 890-3699 Fax. 890-4395 【顧客サービス】☎895-4159 【セブ支局】☎(032)343-8911